

農林省農業技研

日浅治枝子

農家において営まれる衣生活は、戦後急速に変化、発展しており、それらは、被服費支出額の増大、及び、衣服様式の変化に伴う衣服の所有増などに示されるものである。しかし、衣生活を構成する個々の衣服内容を検討するとき、跛行的に発展していることが考えられる。すなわち、一例を衣服の所有増加についてみると、対社会的な外出着類に重点がおかれ、農家生活を行なう上に最も必要と考えられる生産用の労働着、あるいは、労働力再生産のための寝具類、保健衛生上欠くことのできない下着などについては等閑視されている。このような衣生活の跛行性は、農村のかつておかれていた歴史的なよく圧生活から、戦後俄に開放されたためにおこる一時的な現象とも考えられるが、それ故に、農家の衣生活の不合理性が常に問題としてとり上げられるところであろう。それでは、農家における衣生活の合理的な営みとは、一体何を基準として考えればよいのであろうか。換言すれば、合理的な衣生活の営みとは、最終的には衣生活水準の高さを表わす一つの指標ともなりうるであろう。

このような視点から、まづ、農家の衣生活の営みの中でも、都市生活者と共通性をもちながら、しかし、最も関心のうすい寝具生活について、その実状並びに不備な点を明らかにし、しかる後、今後のよりよい寝具生活についての量と質、並びに経済的な見地から、各種の基準を決定してみた。その結果について報告する。